

各 位

会 社 名 株式会社トラス・オン・プロダクト
代 表 者 名 代表取締役社長 藤吉 英彦
(コード番号6696 東証グロース)
問 合 せ 先 取締役 C F O 青柳 貴士
電 話 番 号 045-595-9966

通期業績予想の修正（上方修正）に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2024年3月13日に公表いたしました2025年1月期（2024年2月1日～2025年1月31日）の業績予想を修正いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

1. 2025年1月期の通期業績予想値の修正（2024年2月1日～2025年1月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （2024年3月13日発表）	百万円 408	百万円 △11	百万円 △11	百万円 △15	円 銭 △3.17
今回修正予想（B）	410	4	4	1	0.22
増減額（B－A）	2	16	16	16	
増減率（%）	0.5	—	—	—	
（参考）前期実績 （2024年1月期）	310	△69	△76	△85	△18.47

2. 修正の理由

売上高については、下半期において、主に徐々に回復しつつあるホスピタリティ市場からの引き合いの増加等により、STB 及びサーバー案件の受注が想定を上回って着地する見込みであり、テクニカルサービス事業においても、システム開発案件の受注が堅調に推移する見込みであることから、これらの売上増加が利益増加に直結していること、また、利益面では、TRaaS 事業への経営資源集中に伴い、主に AI 電力削減ソリューション「AIRUX8」、流通小売店舗を対象とした DX 店舗活性プロダクト「店舗の星」、デジタルサイネージプラットフォーム「CELDIS」を中心として、これらの導入実績が積み上がる見込みであることから、研究開発費及びソフトウェアの会計処理に関する実務指針に沿って、そのシステム開発を計画、実行に着手し、TRaaS 事業に供するソフトウェア資産化額の増加により売上原価が圧縮されたこと、加えて、期初想定していた仕入原価及び製造経費の期中の継続したコスト削減、販売費及び一般管理費の業務効率改善とコストコントロールの徹底により、費用支出が期初想定より下回ったことが主な要因です。

この結果、営業利益、経常利益及び当期純利益が期初の赤字予想から、黒字予想の見込みとなりましたので、本年3月13日に公表いたしました2025年1月期の通期業績予想数値を上表のとおり上方修正いたします。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により、予想数値と異なる場合があります。

以上